

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2020年4月15日

今月のトピックス 「荒唐無稽と思われるかもしれないが？」

新型コロナの影響が経済統計に出てくるのは、4月以降となるはずですが、その影響などについて経済ニュースで書こうと考えましたが、データが揃っていないことから今回は株価について書くことにしました。新型コロナウイルスの影響で世界の株価は暴落の憂き目にあっています。NYダウ工業株30種平均は、3月16日に2997ドルの下落と過去最大の下落幅になりました。下落率も12.93%と1987年のブラックマンデーに次ぐ史上2番目の大きさです。

3月23日の週は一転して大幅な上昇と反転しましたが、果たして本当に底値を付けたのか疑問が残るところです。NYダウは、リーマンショック(2008年9月)後の暴落が底値を付けたのは半年後の2009年3月、世界恐慌の時は1929年10月に暴落があり底値を付けたのは9ヵ月後だったからです。ちなみにNYダウが元に戻した期間は、リーマンショックは5年半、大恐慌時は25年もかかったのです。

NYダウはさておき、日経平均株価はどこまで下がるのでしょうか。日経平均株価は2020年3月19日に1万6552円83銭で底を打ち、NYダウ同様3月23日の週に大幅反発しました。当面の底を打った、あるいは1番底を入れた等々の見方も出ていますが、景気の大幅な悪化を考えたなら底値に達したと言えない気がしてなりません。新型コロナウイルスの影響は、もはや現世代に経験者がいない1918年～1919年のスペイン風邪に匹敵する可能性があるからです。そこで日経平均株価の底値も最悪を頭の隅に入れておいた方がよい気がするのです。

日経平均株価は、バブル崩壊を含め3回大幅な暴落があります。1990年1月(正確には1989年12月末の3万8915円)～1992年8月(1万4309円)の63.2%、2000年4月(2万833円)～2003年4月(7607円)の63.5%、2007年7月(1万8261円)～2009年3月(7054円)の61.4%です。過去3回の平均下落率は62.7%なので今回の暴落を当てはめると、高値は2020年1月の2万4083円だったことから、底値は8980円前後になります。相場格言には「半値八掛け2割引き」があることから、格言に当てはめると7710円前後になります。衝撃的な数字となってしまいましたが、今後の企業業績はどこまで悪化するのか予測することができない(来期の業績予測を出さない企業が続出と思慮)ことから、PER、PBRなどのバリュエーションは効かない(計算できない)と思われるのではないのです。

日本銀行のETF買い、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)などが不転の覚悟で株価を支えているとの観測があることから、3月19日の終値で底を打った可能性もあります。また、世界の主要国でも前例のない金融緩和、財政政策を行っていることから、荒唐無稽の数字なのかもしれませんが、あえてニュースで書かせていただきました。日本の株価に関しては、TOPIX(東証株価指数)は1200ポイントがアベノミクスラリーの下値のサポートラインになっています。1200ポイントを今後もキープできるか否かが当面の鍵と思われるのではないかと。